

著者は障害者福祉の向上のために、(社団法人)川崎市自閉症協会代表理事をはじめとして、様々な社会福祉事業に取り組んでいる。本書は、知的障害のあるASD(自閉スペクトラム症)の子どもを育てた著者の経験から、保護者の相談に回答する形で、「子育ての考え方・方法」について紹介している。現在、長男は44歳。「明るく元気に働く大人になります」と自己決定して公務員として働いている。

第1部の「ありのままに地域で生きる」では、第1子が、2歳10カ月で「障害児」と診断された時の母親としての苦悩や障害を認めたくない周囲との葛藤などを赤裸々に語っている。また、1975年に国連で採択された「障害者権利条約」やWHO(世界保健機関)が2001年に採択したICF(国際生活機能分類)の医学モデルと社会モデルを統合したアプローチ、さらに、北欧で生まれた「ノーマライゼー



明石洋子 著

本の種出版 1944円
☎03-5753-0195

発達障害の子の子育て相談① 思いを育てる、自立を助ける

シヨンII障害者も地域の中であたりまえに暮らしてもいい」という思想から、著者自身が、長男を家族や地域から隔離して生活するのではなく、障害のままでも「自立と共生」を子育ての目標とする考え方で再スタートしたことを述べている。

第2部の「思いとスキルを育てる」では、「ほめて育てるとよく言われますが、できないところばかり目につきます」「自分の体を清潔に保つ」を教えるにはどうしたら?」など、日常の子育てで起こる様々な問題に対して、長男の発達のプロセスなどから対処方法を紹介している。例えば朝顔を洗うことや歯を磨くこと、お風呂に入ることなどの躰から、長男と一緒に料理をして、重さや時間の概念などを算数の学習につなげることなど、また、高校入試や公務員試験を長男が受ける時に、母親として「わかっているからできない」ということを「わかのように」教えて、合格したことのノウハウなどの具体例は、健常者の子育てにとっても役立てることができる。(愛知教育大学教授・高橋美由紀)